

産婦人科医必携 最新の細菌・真菌感染症に対する薬の使い方と留意点II

企画者のことば

末岡 浩

近年、未知の感染症の広がりや、それによって引き起こされた社会の混乱に至るまで、感染症への関心は高まる一方です。過去においては抗菌薬の開発が盛んに行われた時代には、感染症は撲滅されるとの安直な理解が医療者のなかにもあった可能性があります。その一方で、われわれ医療者が過信していたことを反省すべき様々な課題が生じはじめ、あらためて感染症への対策には油断が許されない事例を目のあたりにしています。

思い起こせば、人類の感染症との戦いは有史以来、社会の基本的な構造を変えるほどの影響をもたらしてきました。近年でも HIV 感染症、重症急性呼吸器症候群(SARS)、ジカウイルス感染症、腸管出血性大腸菌(O157)感染症などの感染騒ぎの挙げ句に、COVID-19の世界的な感染の広がりに見舞われました。それに対して人類の英知で1つつ解決策を見出してきました。しかし、感染症は人類の生活に密着した課題でもあり、共存しなくてはならない課題でもあります。様々な新規の感染症が発生するたびに、世界はこれに対する対策に必死に克服する努力をする一方で、新たな変異による感染症が発生してきました。なお解決できない感染症は少なくありませんし、今後も新たな感染症に襲われる危険性は疑いのない歴史的教訓です。

本特集では、産婦人科医が知っておく必要のある細菌感染症に焦点を絞って、その治療と留意点について最新の知識をまとめる特集を企画しました。細菌感染症に対して、抗菌薬の予防投与から、実際の治療に至るまでの病態に対する使用薬剤の選択、そしてもう1つ懸念されるのが耐性菌の発生とそれに対する対策です。予防投与を含め、安易な治療方針が、かえって重篤な感染を引き起こす可能性につながることを防ぐためにも、適切な薬剤の使い方を整理し、学ぶことが重要と考えての企画です。

本特集は2回に分けて、感染症の専門家に実臨床に役立つ解説を執筆いただきました。今回はその後編にあたります。すべての臨床家に有用な特集となることを期待しております。